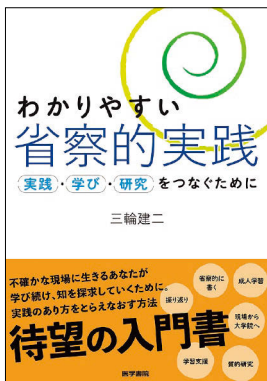


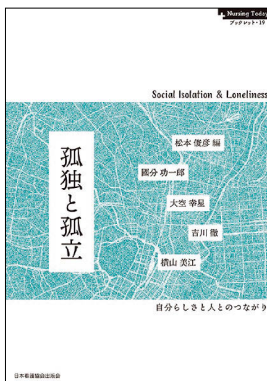
今月の3冊 プラス +1



わかりやすい省察的实践 実践・学び・研究をつなぐために

著：三輪建二
発行：医学書院
定価：2970 円（本体 2700 円＋税 10%）

省察的实践とは何か。看護、教育、福祉などの対人関係専門職が陥りがちな思考に言及し、“技術的熟達者”になるのではなく、省察的实践＝現場の知を探索していくために必要な考え方を分かりやすく解説する。実践の場で学び続ける人を応援する、学び続け知を探索していくために実践のあり方を捉え直す 1 冊。



孤独と孤立 自分らしさと人とのつながり

編：松本俊彦
発行：日本看護協会出版会
定価：990 円（本体 900 円＋税 10%）

SNS が広まり、一見、他人とつながることが容易に思える現代。しかしそこに巣食った“孤独と孤立”は、若者の自殺増加、依存症との関連など、複雑な様相を見せる。ブックレットというお手軽な形状ながら、“孤独と孤立”について、哲学者、NPO 法人代表など 5 人の著者による多様な視点から多くのヒントを得ることができる。

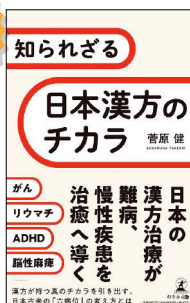


認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック 地域共生社会に向けた 15 の視点

編著：今中雄一
発行：学芸出版社
定価：3300 円（本体 3000 円＋税 10%）

“認知症にやさしいまちは全世代の健康と幸福を支えるまち”と言われるが、それはどうしたら実現できるのか。多領域の研究者や実践家が、医療や介護、人権や年金などの社会保障、ICT や都市計画・交通サービスなどのインフラまで含む幅広い視点から、“共に生きる社会”をつくるためのポイントを提示する。

手軽な
+1



知られざる日本漢方のチカラ

著：菅原 健
発行：幻冬舎
定価：990 円（本体 900 円＋税 10%）

漢方は、信奉者も多い一方で「すぐ効かないのではないか」機序が不明「使い方が難しそう」などのイメージも根強い。それらを払拭すべく、20 年にわたり、日本人に特化した“日本漢方”と向き合い、1 万 3000 人以上の慢性疾患や難病に苦しむ患者と向き合ってきた医師がその実力と魅力を、症例を交え語る。